

史跡大里古墳(2号墳)について

1952年(昭和27)6月25日県史跡指定

大里古墳は、紀伊水道を望む大里松原海岸の砂帯上に、古墳時代後期の6世紀末から7世紀初頭に築造された円墳です。覆土が流失し、巨大な天井石が露出した状態で長く保存されてきましたが、一部崩壊の危険性が生じてきたため、平成25年度から海陽町により整備を進めてきました。

本古墳は、1951年(昭和26)に旧海部中学校教員であった岡田一郎氏(写真)により発掘調査が実施され、翌年には県史跡第1号に指定されました。その後、1996年(平成8)には徳島大学により詳細な発掘調査が行われ、幅2mの周濠をもつ直径20mの円墳であることが確認されました。



また、石室は全長11.2m(羨道5.5m、玄室5.7m)、玄室高2.3mを測る両袖式(片袖式の見方もある)の石室であることが確認され、石材是那佐湾周辺で産出する砂岩の巨石を用いるなど、当該時期の古墳としては県内最大の円墳と言えます。

副葬品としては、装身具の金環・鉄鏃のほか、須恵器の蓋坏・高坏・埴瓶などが出土しています。

本古墳は、紀伊水道を望む浜崎の砂帯上に築造されていることから、葬られた人物は、阿波の「海部」として海上交通や漁労など海を舞台に活躍し、海部郡内をまとめた有力者と考えられます。

(表紙写真：昭和26年の発掘調査に参加した青年団のメンバー)



大里古墳から出土した副葬品

○古墳へのアクセス

■公共交通機関

- ・JR阿波海南駅から徒歩20分、車3分
- ・JR海部駅から車5分

■車

- ・国道55号線海陽町役場を左折(徳島方面から)
- ・右折(高知方面から)約500m

■駐車場

- ・特にありません。

■住所

- ・海陽町大里字浜崎34

○海陽町立博物館へのアクセス

■公共交通機関

- ・JR阿波海南駅から徒歩30分、車5分
- ・JR海部駅から車10分

■車

- ・国道55号線コンビニエンスストア前信号を左折(徳島方面から)
- ・右折(高知方面から)約200m

■住所

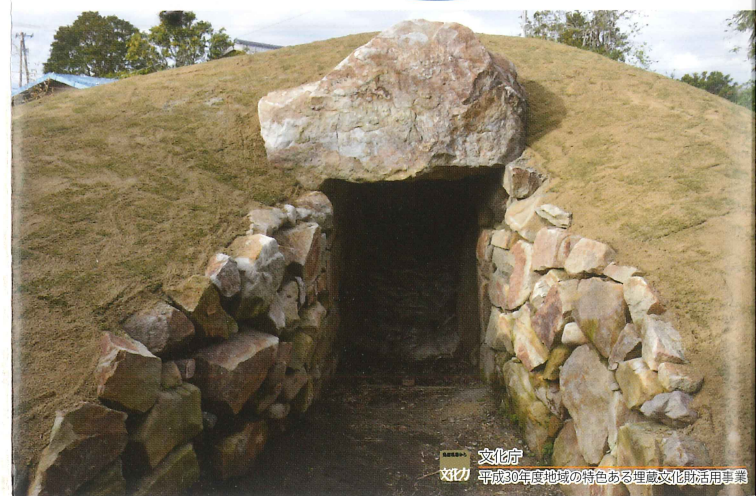
- ・海陽町四方原字杉谷73 TEL：(0884)73-3100

○案内図



県指定史跡

大里古墳 周辺散策ガイドマップ



史跡大里古墳の周辺には、大里古銭出土地をはじめ、海陽町の歴史を語る多くの文化財があります。古墳を訪れたあと、周辺を散策してはいかがでしょうか。



四方原開拓之碑

寛永14年(1637)の開墾開始から、350年を記念して建てられた碑。



海部城跡(町指定史跡)

鞆城とも呼ばれ、1571年に海部左近将監友光が築城したと伝えられる。蜂須賀家政が配置した支城の1つ。



大岩慶長・宝永地震津波碑
(町指定有形文化財)

慶長(1605)と宝永(1707)に起きた2度の津波の様子が記録された石碑。



鞆浦海嘯記碑
(町指定有形文化財)

1854年に起きた安政南海地震の記録。地震の翌年に、当時の海部郡代高木真蔵によって書かれたもの。



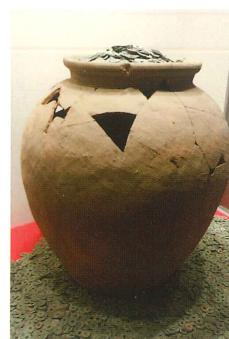
阿波海南文化村

個性豊かで創造性に富む海陽町の歴史・文化を盛りあげ、魅力ある地域づくりを行うための拠点として建てられた施設。(海陽町HPより)



大里八幡神社(『海南町史下巻』より)

10月の例祭日には、神輿のほかに関船や山車が松原を練り歩く。



大里古銭
(町指定有形文化財)

昭和54年(1979)に、新築工事で出土。高さ70cmの備前系大甕に、70,088枚の銭貨が埋納されていた。14世紀中から後半のもの。現地には石碑が建っており、出土遺物は海陽町立博物館に展示されている。



多田家住宅洋館

大里古墳周辺散策マップ